

郷土資料—大宮市地区編

昭和五十年七月二十七日

第七十回史跡めぐり資料(大宮編)

越谷市郷土研究会

第六十二回史跡めぐり案内

越谷市郷土研究会

一日時

七月二十七日(日)

午前十時 越谷駅集合

場所

(コース)

越谷駅 (十時出発)

春日部

大宮公園下車

○県立博物館

○北沢楽天漫画会館

○大宮盆裁村

○越谷駅

其の他

会費

六百円

但し昼食は各自ご持参下さい

目次

案内 巻頭

地図 九頁

大宮市の生いたち

新編武蔵國土紀綱(大宮領) 三頁

大宮公園 四頁

北沢楽天 四頁

大宮盆裁村 五頁

楽天記念館 六頁

氷川神社 六頁

大宮市の文化財道しるべ 六頁

独鈷石 土版 耳飾

縄文式土器 満蔵寺板石塔婆

仁王像 瓦生式土器

みみずく型土偶

壽能城跡 鎌子一里塚 八頁

土呂の式形 氷川神社行幸絵巻 九頁

秋葉神社その他 九頁

寿能城跡と県立博物館 九頁

(日置宗一)

# 大宮市の生いたち

はじめに地名のおこり、  
かつて氷川神社を「大いなる宮居」と  
呼んだことから発したように、大宮市  
は武蔵国一の宮として知られる。氷川  
神社に象徴されます。

(その二)  
古くは仲仙道の宿場町として栄えたが  
明治八年、大宮駅が開設されたから  
は鉄道の町として、鉄道と共にその「  
史を刺入で来たが、最近では首都北門の  
町として変貌しつつ、歩みを進める。

沿革を知るには「史全般をひもとかねばなら  
ないが大畧は年表にても知ることが出来る（  
縮図として）而しそのつながりは解しにくい。  
今その要旨のみ記してそのよしがとしよう。  
一、かつては満々とした水をたたえていた見沼、  
古い大宮は、その見沼の入江に面した現在の  
黒塚、奥山、寿能等の水際の台地に発達した  
ものと思われる。

一、上古時代にすでに我々の先住民族が居住し  
ていたことは明らかである。大和時代の初期  
東国の経営に果たした出雲族臣らの手によって、  
国内統治祈願のため、祖神三柱を祭祀した氷  
川神社の創建がその発祥のようである。  
一、その後武蔵国造がこの地に拠り、祖神の祭  
祀とともに武蔵国府をおいて祭政一致が布か  
れるようになった。から武蔵国の中心地となっ  
た。

一、奈良時代に、氷川神社が「武蔵国一の宮」  
と制されて、同社を「大いなる宮居」とあるい  
は「大宮居」と崇めたことが、いつの世から  
かその地名を「大宮」と呼ぶようになったと  
伝えられる。

一、かつては仲仙道の宿場町として江戸から凡  
そ七里十六丁、水曾路につながる一宿駅であ  
った本市も明治十八年大宮駅の開設を見て以  
来、県内交通樞の分岐点として重要な位置  
を占めるに至った。現在本市を通過する鉄道  
路線は、

国鉄 東北本線

2. 上信越線

3. 起矣とするものに京浜東北線・川越線

4. 松鉄としては東武野田線等である。

新編武蔵風土記稿

卷之百五十三  
足立郡之十九

大宮領

自八五頁下段  
至八六頁上段

◎大宮宿

大宮宿は当国一の宮直てる地なればその名となせりと云う。正保改めの郷帳には大宮町と記せり。又当所は「国造本紀」に載る牟婁志の府を置かれし地なることは既に郡の総説にいへり。其の地は郡の中央より少し西へよれり。中山道六十七駅の一にして江戸より七里を隔て浦和宿へ七里十町。上厩宿へ二里の行程なり。又埼玉郡岩槻城下まで二里。郡内與野町へ三十丁。原市村へ二里ありてこの五ヶ所往來の速場なり。高鼻郷に属す。

当所の宿駅となりしは古きよりのことにはあらず。昔は今の本村、高鼻、土手宿の三村を

合して、大宮と呼びて村落なりしを、御入国の後中山道を隔かれし時、伊奈備前守忠次が指揮にて、百姓屋敷四十二軒に地子を賜じ、始めて人馬糞並をなさしめしとあり。其頃は往來も今とは異りて、氷川裏大門より大門へ出、一鳥居の辺より今の中山道通へつゞきたり。然るに年を追て宿駅繁多にして、丁役に勝りしかば、寛永五年伊奈半十郎忠次が計らいにて、今の往來其頃原野なりとを、地割して町並となし、六万四千三百十三坪餘を地子として、継立の費用に宛てたりしと云う。則今の本村、北原台衛門八分、甚之丞新田吉鋪町、新宿中町、新宿下町是なり。此七所を通じて総名大宮宿と云り。斯て当所の町役は五十、人馬五十匹と定められしかど、尚時として往來繁多なるために、元禄七年近郷一万千八百廿七石餘の村々に課して人馬とも助立すること定めしなり。

民家二百餘軒、多くは宿の往來に由て連住せり。其四境の大様は南方北袋。上落合の二村に続き、北は大成、土手宿、高鼻の三村に



並び、東は三沼の新田を隔て南部領大和田、中丸の二村に続き、西は上中下小村田の三村なり

東西の徑り三四丁、南北は五十町に及ぶ。

当村天正の頃は潮田出羽守、同左馬允等領せしと云えり、御入国の後は世々御料所にて、ただ新宿の内わすかの地を伏見源次郎知行す。こは享保の頃三沼代用水堀割せられし時、堀舗濱の地の代として賜ひしなりと云う。

檢地は天正二十年、伊奈熊蔵が糺せしを古しとすれど、こは本村のみの檢地なりと云う。其後寛永六年伊奈半十郎檢地し、又新開の地は享保十六年柴村藤右衛門伊庭市兵衛、村上左五左衛門、池田喜八郎、市施弥市郎、中島十左衛門等糺し、享保二年山崎岡右衛門、久保田伝七郎糺せり。

### ◎大宮公園

永川神社の神域につらなる大宮公園は、総面積廿七万平方米の老松に彩られた自然公園である。園内には兒童遊園地をはじめ、小動物園、

ホート池、存葉植物園、弥生式古代住居跡などがあり、また県下唯一の総合体育施設が整い、行楽スポーツのメッカとして広く親しまれている。

### ◎北沢楽天

物故者ながら、昭和三十一年五月三十日推挙されて名誉市民としてなつた人、社会文化の興隆に功績があつたのをたたえられて名誉市民となる。川島金次氏と共にその第一号。この人は大宮市が生んだ近代漫画の創始者下、明治年間から昭和の初期まで、日曜報知、東京バツクなどに政治社会の風刺画に独特な筆致をふるひ、家庭に健全な笑いを送り込みました。

門下生には下山四夫、川端龍子、長崎技天、麻生豊、近藤白出造、田中比左良、松下井知夫、西川辰美氏などがおられます。

漫画館資料参照のこと。以下略

# ◎大宮盆栽村

## 概観

盆栽園案内によれば国電大宮駅からバスで五分大宮駅東換、東武線大宮公園駅、徒歩三分主なる園は次のように紹介されている。

芙蓉園、九霞園、清舎園、蔓青園、蔓青分園、寛葉園、藤樹園、一光園等があり、樹令五〇年から一五〇年にも達すると言う銘木等がある。

大宮盆栽は、われわれの先祖が、大自然を憧憬する大きな感動の心から独創された命ある植物芸術で、こまやかな愛情と高度な技術によって、年輪を重ねるごとに、いい知れぬ優雅さと格調を高めゆくものである。わずかの尺寸の盆上に永い生命を保ちながら大自然の神秘と優れた美しさをあらわし、観る人に大きな感動と希望をよえる。

大宮の盆栽村は、大正十四年に盆栽家数軒が移住して開拓したわが国唯一の盆栽育成地で、大宮公園以北の、いまなお武蔵野の風情をとどめる赤松の林に囲まれた気澄み水清き別天郷にある。

拾万坪に及ぶこの盆栽村には、一つの枝に数百年の丹精をこめて、自然の縮図を一鉢に表現する十数万鉢の盆栽が生氣よく育成されている。

いまわが国の盆栽づくりの名所として国内の愛好者はもとより、外国人の訪れも多く、特に世界的日本チームにのつて遠く海外に渡る盆栽も多く、日本の「盆栽」になつてゐる。

代表的なものを二（一）三紹介すると

1. 幽遠 えず松 樹令一五〇年鉢 紫泥長方形
  2. 千羽鶴 五葉松 樹令五〇〇年鉢 古渡魚泥長方形
  3. 三幹 檜柏 樹令百五十年鉢 紫泥丸
  4. 根遠 杉 樹令二十年鉢 和心はん
  5. 株立 もみじ 樹令二十五年鉢 秘色楕円
- このような樹令と種類を観るのは珍しい。



# ◎楽天記念館

註　さきに記述した大宮市　名誉市民  
故北沢楽天の業績を顕彰するため

本市では、弟子の長崎技天、松下和夫、西川辰美氏など関係各市を中心とした楽天顕彰会の協力を得て、市内益我町にある

## 「楽天居」

の敷地内に「欽訃三階建」の記念館  
館内にはその遺作「遺稿数十展示し、更に世界  
各国の、漫画関係資料を集めた「漫画センター」  
でもある。

遺作「良寛」群盲撫象」が有名である。

# ◎氷川神社

市内高鼻町の老樹う、そらたる神域に鎮座し、  
今から凡そ二千年余の昔、孝明天皇の代に創立  
されたと伝えられる。祭神として須佐之男命、稻田  
姫命、大己貴命の三柱が祀られ、聖武天皇の代に  
「武蔵国一の宮」と定められ、歴代天皇の崇敬も  
厚い。鎮花祭四月五六七日、例大祭八月一二日他、

# 大宮市の道しるべ

資料　大宮市教育委員会前管

## A 独鈷石

本市の宮原池内の奈良瀬戸遺跡から出土したものである。縄文時代の晩期、約二千年から二十五百年前の縄文時代の終りごろの石器で、東日本特有のものであり、頭を鋭らせた石斧、石鏃を念探調査に依りて得られたものとして、珍しく貴重なものである。

## B 土版

出土時代は独鈷時代と同じく縄文時代の中期一種の護符と推定される。大きさは、土版の模倣構成から、面の面白さ、完成品である事から日本土版の代表作とまで云われている。発掘によって、学界から注目を受け考古学の資料として貴重なものである。

## C 耳飾

出土地　時代は前二者と同じく奈良瀬戸遺跡に属し、縄文時代の耳飾りとして使用した土製のものである。約一六〇個程出土し、形状大きさが異なり当時の文化を裏付けるもの

としてその精巧さにおどろく。

### 縄文式土器

県立文化会館所蔵

この縄文式土器は中期のものと推定されその時代の特色が曽利F式で高さ三十cm幅二十五cm全体の厚さ一cm余りの素焼灰褐色の荒い肌をし左斜縄文の荒目が施されていり。形状はウリバー型と称される。大型土器の大半がこれに属す。

### 満蔵寺板石塔婆

満蔵寺に在り

この石塔婆は板状の形状に特色があり、鎌倉時代後期即ち約六四〇～六五〇年前の作品である。形態が美しく保存状態も良好であるから中世の大宮を知る上に欠く事の出来ない貴重な資料である。市内には約十基の石塔婆があるが市文化財指定五基の内の一つである。

### 仁王像

薬王寺蔵(市指定文化財)

遊行造像円空の作。諸国遊行の途上に作像したものであるがその作は頗る多い。円空仏の中には如来、菩薩、仁王と種類も多いが全体を通じての特色は松又は杉の柱目を選んで彫った

ものであり、平ノミで鋭く切り込んだ所に烈しい表現があり、ここに造形感覚の鋭さ、自然の木片の材質と体形を非常な巧みさを使っている姿にある。この仁王像(高さ五十一cm)は鋭い荒けずりの中に仏に對する一心不乱な祈りの姿が浮彫りにされている。

### 弥生式土器

大宮市県立文化会館敷地出土  
県指定文化財

弥生式時代中期の典型的なもので又ヶ原式の壺形土器である。高さ三〇cm、生地は弥生らかなる面にはつや出しをした形式がある。全体からの感じは、おおらかなふくらみときりつとしたしまりかうかがえる出来栄である。

### みづすく型土偶

大宮市教育委員会蔵

今から二十( )三千年前のものと推定されるがこの種の土人形のなかで最古の土偶と云われるものは石器時代の発掘品の中にある。この土偶の特長としては、現代には思いもつ



かないような奇抜な形をしたものであり、いのかまじないに用いたものの、単に人形として作られたものかは不明である。

み、ずくに形が似ていることからみ、ずく型土偶という名称があるが、高さ十三cmで表現は平面的である。単純化された造形の中に力強いものか感じられる。

◇ 寿能城跡

大宮公園の東北五百米、今の寿能公園は寿能城本丸の跡と伝えられている。

天正十八年四月、城主細田出羽守資忠は家臣と共に小田原城を討死し、翌五月、寿能城も豊臣方の手に依って落城、城は災上したと云われる。今付ただ出丸の跡が往時を偲はせるだけで、本丸附近の小高き塚に城主の墓碑が現存している。

◇ 藤子一里塚

市内藤子にある一里塚は江戸時代の初期に築かれたもので、日光御成街道と称えられていた頃、江戸より八里、岩槻へ一里一の道標で、当

時は街道の西側へ築かれ、塚の上には榎が植えられていたが、現存するものは東側のものである。

◇ 土呂の大杉

一名「蒼立杉、逆さ杉」とも云われ故事もあるが大日本名樹之本誌にも掲載されている名木で、樹令約八百年、樹高約二十六米、幹廻り七米の雄大さは他に類例を見ないと称されている。

◇ 氷川神社行幸絵巻

明治元年十月二十八日、明治天皇が氷川神社へ行幸された時の模様を、川越氷川社の祠宮山田衛居氏の筆によつて長さ十三米、幅四十五cmの絵巻に収めたもので、兵隊、輿丁、公達など、その服装も、洋服、衣冠、直垂、さまざまな時代色をあらわしている。  
(氷川神社々室の一つである)